



千葉明德短期大学 MAGAZINE 『月歩学歩』 2017年7月号

いい顔？誰に？

少し疲れが...

焦りも？希望は？

後る向きに前進  
できるの？






# 7月号の内容

- ❖2年生 教育実習を振り返って 3
- ❖1年生 教養基礎演習の授業 5
- ❖1年生 音楽表現演習I 7
- ❖'Oキャン'から報告 8
- ❖わくわく体験研修からお知らせ 9
- ❖コンサートのお知らせ 10
- ❖学園祭のお知らせ 11
- ❖公開講座「めいトーク」 12
- ❖学生編集委員の自己紹介 14

■表紙  
 「あそび基礎演習」 形であそぼう  
 (一年生の造形表現授業) 坂田良賀君の「テキタ」

■編集  
 深谷ベルタ、久保瑤子



# 2年生 教育実習を 振り返って

## 大村あかね

### ～ちゃんと成長しているよ～

6月、3週間にわたる二年生の教育実習Ⅱが行われました。

実習が終わった直後の7月3日の事後指導では、率直に感想を話し合い、共有し合う機会を持ちました。このときは、まだ気持ちが高揚していて、「とにかく楽しかった!」「こんなに大変だった!」といったことが話題の中心でした。それから更に1週間経ち、解放感も少し落ち着いて、学びのレポート作成・発表やゼミなどを通して、実習について冷静にふりかえった学生たちの学びの内容が、少しずつ見えてきました。様々な学びがありましたが、その中の一つを取り上げたいと思います。

1年生の教育実習Ⅰでは、まず目の前の子どもを理解しようとするのが出発点になったのではないのでしょうか。つい一人の子どもとばかり関わってしまったという話もよく耳にしました。2年生の実習では、特に責任実習を意識して、生活の全体的な流れや、クラスの子どもたち全体を把握する広い視野を心がけて臨んだ方も多かったようです。

しかしながら、初めての責任実習は、どうしても自分の計画を中心に考えてしまいがちです。ここでクラスの子どもたちは、まとめて動かそうとする保育者の都合で括った「集団」とされ

ます。ところが現実はどうもそううまくはいかず、様々なペースの子どもがいます。個別の援助を必要とするに子ども対応していたら他の子どもがもつとあそびたい気持ちをもてあましてしまったり、逆のことをすればゆっくり行動する子どもは置いていかれてしまう、という状況に直面するのです。

こうしたことから、1年生の時に「個」に向けられていたまなざしが「集団」に向けられ、そこで再び「個」の多様さを踏まえること必要性に気づく…といった具合に、振り子のような視点の移行が認められます。しかも、単純な「個」か「集団」という行き来ではなく、多様な「個」が存在する「集団」で、それぞれの子どもなりに満足するような活動はいかにして可能か、といった問いの立て方がわかるようになっていく、更に、「集団」に生まれるダイナミクスがあそびを大きく動かしていくことに気付く…といったように、その意味を深めながら理解が進んでいっているのです。1年生の発達心理学（演習）の授業でも取り上げた、「一人ひとり」を大切にすることと「みんなで」の生活を大切にすることの両立という、一見矛盾するこの難問に、学生は実習の中でアプローチしていたのです。

ゼミで「実習で成長したところは」と聞いてみても、「成長したのかなあ…」と半信半疑な様子が見られましたが、話を聞いていると、こうした気づきがたくさんあり、それ自体が成長なのだと、伝えることになります。実習指導は、学生が自分の成長を自覚することでも大切なねらいであることを教えられます。

それにしても、現場での子どもの姿や保育者の励ましをモチベーションにつなげ、「寝てません」と言いながらも、子どもがやってくると優しくほほえみかける実習生の姿を見ると、保育者であろうとするその姿勢に、素朴に感心します。そのような姿勢で3週間を過ごすことで、すべてを解決する正しい「解」よりも、わかっていると思っていたことの本

当の意味に気付くような、地味だけれど、じわっとくる保育の面白さが、実習生へのご褒美として用意されているのではないかと、思ったりしています。





# 1年生 教養基礎演 習の授業

## 鶴田 真二

この授業は、「学ぶ楽しさを知る」「他者に目を向けることを通して、自身の関心の世界を拓げる」ことを到達目標としています。そのため、授業の内容は、皆さんが普段、あまり出会わないような人と会う、あまり考えられないようなことを考える時間となるよう組み立てています。

6月17日（土）の授業「講演①」はいかがだったでしょうか？ 以下、当日の授業後に皆さんが書いた感想（抜粋）をいくつか紹介します。

### \*テーマ\*

> 日本における外国人

### \*内容\*

> 千葉県弁護士会弁護士の辻慎也さんによる講演「日本における外国人・児童の状況～在留資格と学習権」

> クルドのこどもたちによる劇

> 学生・教員による合唱「ふるさと」

- ・ 千葉県の在留外国人数が日本の中で6位だということに少し驚きました。私はあまり出会ったことがないので、私の知らないところで頑張っている人がいるんだと思いました。外国人が日本で生活してい

くためには、様々な書類や審査が必要で、なかなか認めてもらえていないという大変さを知りました。

- ・ 今回、とても心に残ったのが、「言葉が違ったり、肌の色が違う子でも認めてあげることが大事。みんなちがってみんないい」という言葉です。実習先で、日本語が話せない中国人の子どもが2人います。言葉が伝わらなくて前回の実習で、どう対応すれば良いのか分からずに悩んでいましたが、今回の話を聞いて、「認めてあげる」という言葉に心が打たれたので、向き合って対応してあげようと思いました。

演劇の最後の言葉で「逆の立場ならどう思いますか」の所を、もっと色々な人たちにも聞いてほしいです。この短時間で考えたことなので浅いですが、私ならこどもを守るため必死になりどんなことでもしますが、他国の知らない町で、知らない人に囲まれ生活も安定しない暮らしは、本当に絶望的でどう生きていけばいいのか…とただただ毎日生きていくことだけで精一杯になると思います。

- ・ 最後、こどもたちが私の所に来て、「本当にありがとう」と言ってくれました。「ありがとう」と言うのは私たちの方だよという思いを込めて、私もこどもたちに「ありがとう」と返しました。その後も手を合わせてきたり、「将来の夢は何?」「私さっき自己紹介したけど、名前何でしょう?」などと話をしてくれました。皆笑顔で、とても素敵なこどもたちだなと思いました。私が泣いていると、「何で泣いてるの?」と声を掛けてきたこどもがいました。「感動したの。本当すごかったよ。」と返しましたが、あまり分かっていないようでした。それでも「ありがとう」と言ってくれた事が嬉しかったです。
- ・ 最後、お別れで、クルド人の女の子と握手ができて、その手の温かさを感じ、この子の未来が明るいものであるようにと願わずにはいられませんでした。
- ・ 私たちは「ふるさと」という歌を歌ったけれど、クルド人に「ふるさと」と呼べる場所はあるのでしょうか。辻先生からのお話にありましたが、難民申請が通るのはとても難しいという現実。申請をしている人の恐怖は目で見て証明出来るものではないけれど、その恐怖はとても私

たちには想像も出来ない程のものだと思います。私たちに出来る事は何でしょうか。

- ・ 今回の授業とは少し離れますが、「ふるさと」は改めて歌うと歌詞がすごく良くて、歌いながら涙があふれてきて途中歌えませんでした。ふるさと（帰る場所）があることを当たり前に思っていたのですが、本当は当たり前ではないことを考えて今の幸せを大事にしていきたいです。
- ・ 今、思うことは「こんなにも幸せなのに」という事だ。人間誰しもが恵まれた環境で過ごしているわけではない事を再認識した。私たちの「当たり前」が「幸せ」という人もいて、私たちの「嫌な事」が「当たり前」という人もいる中で、今をどう生きるか見つめ直そうと思った。

授業担当者（金子重紀・明石現・鶴田真二）としては、この授業が皆さんにとって、自身の関心を広げるきっかけになっていればと心から強く願うばかりです。

さて、7月5日（水）の授業「講演②」では、ろう者で俳優の井崎哲也さん（トット文化館、日本ろう者劇団顧問）をお招きします。詳しくは次号にてお知らせします♪



# 1年生

# 音楽表現演習I

## 古山 律子

♪わたしゃ おんが〜くか やまの こりす、  
じょうずに ヴァイ〜オリン ひいてみましょ  
う……。今、1年生は入学して初めての实技  
試験に向けて、一生懸命弾き歌いの練習をして  
います。「弾き歌い」とは、ピアノやギターで  
伴奏を弾きながら、子どもによく声が通るよう  
にはっきり歌をうたうという保育の表現技術で  
す。10人程度のグループに分かれて授業は進行  
しており、前期のうちに、10曲以上の「弾き  
歌い」をマスターする必要があります。他にも、  
リズム、歌唱、理論などの小テストを経て、い  
よいよ期末試験です。

「ピアノは弾けるのだけれど、一緒にうたうっ  
てというのが、予想以上に難しい。」「声が出な  
い。」など、経験者にとっても慣れるまでには、

しばらく時間がかかるものです。一方、「学校  
に入ってから弾き始めたけど、前期だけでこん  
なに弾けるようになった!」と素直にレポート  
リーが増えることを喜び、目を輝かせている学  
生もいます。最初から「弾く・うたう」行為を  
同時に修得し始めた学生には、違和感なく身に  
ついていくようです。授業にかかわる  
教員は、グループで共に教えあう学生同士の学  
びあいを活用し、かつ一人ひとりの状況に応じ  
て丁寧に指導することを心がけています。音楽  
を通してみなさんの個性が発揮されるように、  
音楽の好きな保育者が一人でも多く将来現場で  
活躍されるように、応援していきます。



# ‘オープンキャン’から 報告

## 明石 現

◎ 6月24日に4回目の「オープンキャンパス」  
が行われました！

今回も例年の6月同様、多くの高校生の皆さん  
がご参加くださいました。

「体験授業」は古山律子准教授による「こ  
どもの歌とリトミック」を受講いただき  
ました。全員で輪になり、初めて会う生徒  
さん同士で、わらべうたや手遊びなどを体  
験することで、緊張が歓声に変わってい  
きました。また、ご同伴いただいた保護者  
の皆様が子ども時代を懐かしみながら、  
手遊びを一緒に楽しんでくださっている姿  
が印象的でした。

「卒業生トークライブ」では本学42回生の  
吉田勇太さん（明德浜野駅保育園・勤  
務）、斉木愛さん（明德土気保育園・勤  
務）にお越しいただき、現役保育者として  
のお仕事、明德で学んだこと等をお話し  
いただきました。高校生の皆さんにとっ  
ては、具体的な将来像を描く貴重な機会だ  
ったことと思います。

最後には「なんでも相談コーナー」「めい  
とくカフェ」が行われ、入試関連の他に、  
実習、学生生活等について教員や在学生  
とゆっくりとお話しいただきました。

オープンキャンパスの学生スタッフ（在学  
生、卒業生）が、高校生の皆さんへ明德  
での学生生活の楽しさや保育者になるた  
めに頑張っていること等を熱心に伝えて  
いる姿は、一教員として大変頼もしく感じ  
ました。

高校生の皆さん、またのご参加を教職員、  
学生一同お待ちしております！





# ‘わくわく体験研修’から

お知らせ

明石 現



◎ わくわく体験研修「スペイン」相互交流コンサートを開催します！

今年もスペインから6名の学生と教員が来日し、本学学生の家ホームステイをしながら、10日間（7/23～8/1）日本に滞在します。

そして、毎年恒例となった本学とスペイン・サンタンデルのアタウルフォ・アルヘンタ音楽院の相互交流事業として、7月31日（月）に東京・市ヶ谷にあるスペイン国営・セルバンテス文化センター東京において両国学生・教員によるコンサート「スペインと日本、音楽の出会い」が行われます。皆様のご来場をお待ちしております！

また、滞在中の7月28日（金）には本学で行われるコンサート「明德はうたう」にもご出演いただき、学生同士の交流の機会を持つ予定です。両国の学生にとって、心に残る交流となることを願っています。



# ■■ コンサート「スペインと日本、音楽の出会い」■■

## Vol.3

スペイン・サントンデルのアタウルフ・アルヘンタ音楽院と千葉明德短期大学の相互交流事業としてのコンサート。両国の学生と教員が織りなす当コンサートでは、芸術表現に対する感性の交感を通して、スペインと日本の若い芽の親善を図ります。両国学生の他に、フルーティストのララ・マンサノ、ダンスの田中葵、11弦ギターの明石現が出演します。

●日時：2017年7月31日（月）19:00開演

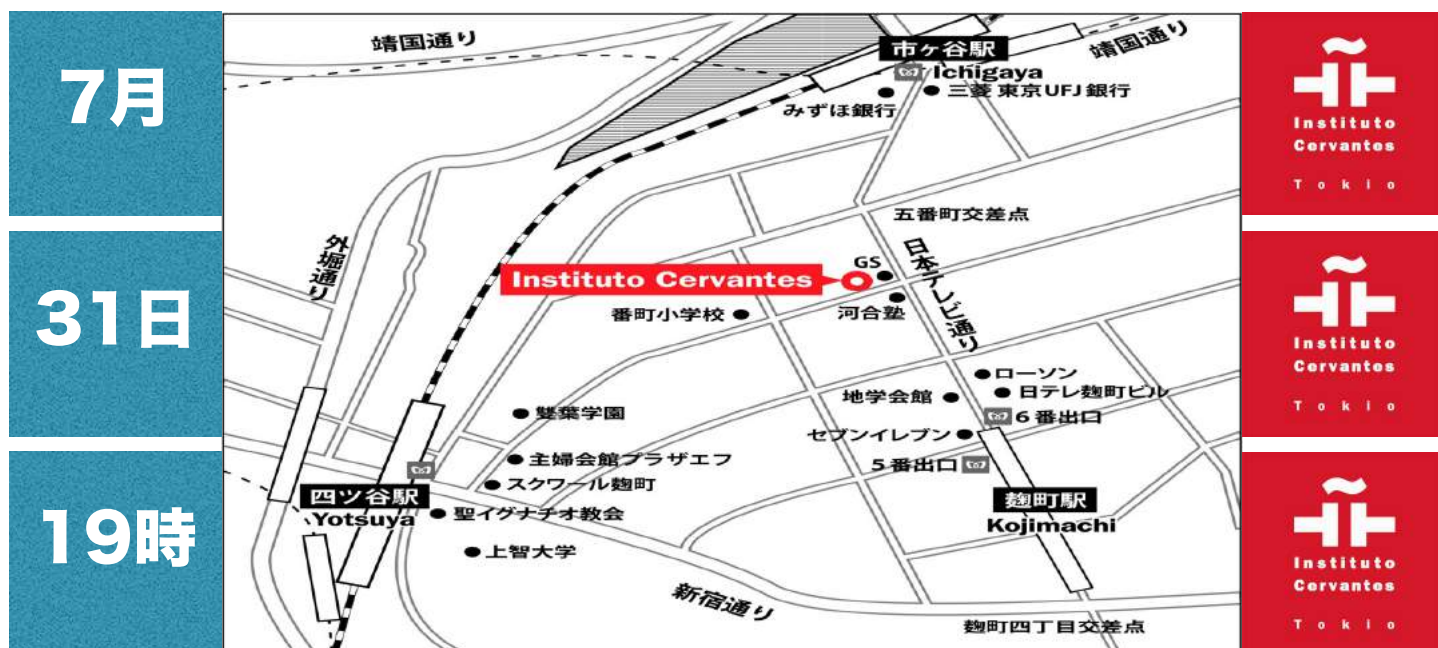
●会場：セルバンテス文化センター東京 地下1階オーデトリウム

●予約：参加ご希望の方は以下ウェブサイトよりお申込みください。（イベント開催約1ヶ月前に受付を開始します） 入場無料

<http://reservas.palabras.jp/ja/>

●セルバンテス文化センター東京 〒102-0085東京都千代田区六番町2-9 セルバンテスビル

- ・ 東京メトロ有楽町線「麹町駅」5,6番出口より徒歩3分
- ・ JR/東京メトロ有楽町線・南北線/都営新宿線「市ヶ谷駅」より徒歩6分
- ・ JR/東京メトロ丸ノ内線・南北線「四ツ谷駅」麹町出口より徒歩7分





千葉明德短期大学

保育創造学科

# 学園祭


8月6日(日) 10:00~16:00

- ※たいむ(授乳、おむつ替えスペース、保育室)開放して
- ※駐車場はありません  います。

100円  
おやつ 

焼きそば

たこ史で  
選ぼうや

他にも、  
食べ物、出し物  
たくさんあり哟 



# 公開講座

## めいトーク

久保 瑤子

今年も7月1日（土）に「公開講座 めいトーク」が行われました。今年度のテーマは、「響き合う保育とアート」。第一部では、白梅学園大学学長の汐見稔幸先生より、「幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂から」というテーマで基調講演をしていただきました。今回（H30年度～）の改訂の大きなポイントとして、「保育は、幼児期の『教育』である」ということを積極的に認める内容になっていることが挙げられます。幼児教育の重要性を今後社会に伝えていくためには、保育者自身が一「なぜ、その遊び（活動）をするのか」、一「子どもたちはその遊び（活動）を通して、どのような力を育てているのか」、一「何のためにそのような力を育てたいのか」一を理解しながら、日々保育の質を向上していくことが大切である、ということに改めて気づく貴重な機会となりました。

第二部では、一「明德 あそぼうカー」の実践から子どもの表現を考える一というテーマで、実践を行っている深谷ベルタ先生と汐見稔幸先生による「対談」が行われました。深谷先生の実践は、充分すぎる量の「土粘土」

を使って子どもたちと一緒に遊ぶという活動です。「土粘土を使った遊び」と聞くと、何か作品を作るのでは？とついつい考えてしまいがちですが、深谷先生の実践は違います。深谷先生が見せてくださった写真の中には、粘土の上を歩いたり…自分の足を粘土で包んだり…背中の上に粘土を乗せて亀になったり…粘土を高～く積んでその上からジャンプしたり…粘土の重さを測ったり……素材そのものに関わり、全身全霊で粘土を楽しむ子どもたちが写っていました。私が保育者であったら、つい子どもたちの遊びが盛り上がるように…と先回りをして様々な素材を準備したり、「遊び方」を考えたりしてしまうと思います。しかし、深谷先生の実践報告を通して、シンプルな（しかも大量にある）素材こそ、無限の遊び方ができてワクワクすることに気が付けたのと同時に、子どもたちが素材そのものを楽しむ姿に「アート」を感じられる（見つけられる）保育者の目こそ大切なのではないかと強く感じました。

当日は199名の参加者があり、県内の保育園、幼稚園にお勤めの保育者の方々が多く参加されました。参加者の方々からは、「保育の原点にかえることのできる貴重な機会でした」、「時間が足りません！もっともっと聞きたかったです！」という声が多数寄せられました。

#### 参加者の声

▷5領域の内容がなぜあの5つだったのか、理論的な根拠と共に生きる上で必要なものだとして理解することができ、保育をきちんと説明することができる自信にも意欲にもつながりました。

▷「表現」に対する考え方が変わりました。「表現」、「アート」という言葉はなんとなく保育の中で難しい気がしていましたが、今回の講演で「アート」を身近に感じることができました。子どもの感じる気持ち・表現を「楽しい」、「面白い」と感じられる保育者になりたいです。

▷あそびとは、とても限りないものだと思います。遊びの可能性は広く、大きいものである

と感じました。

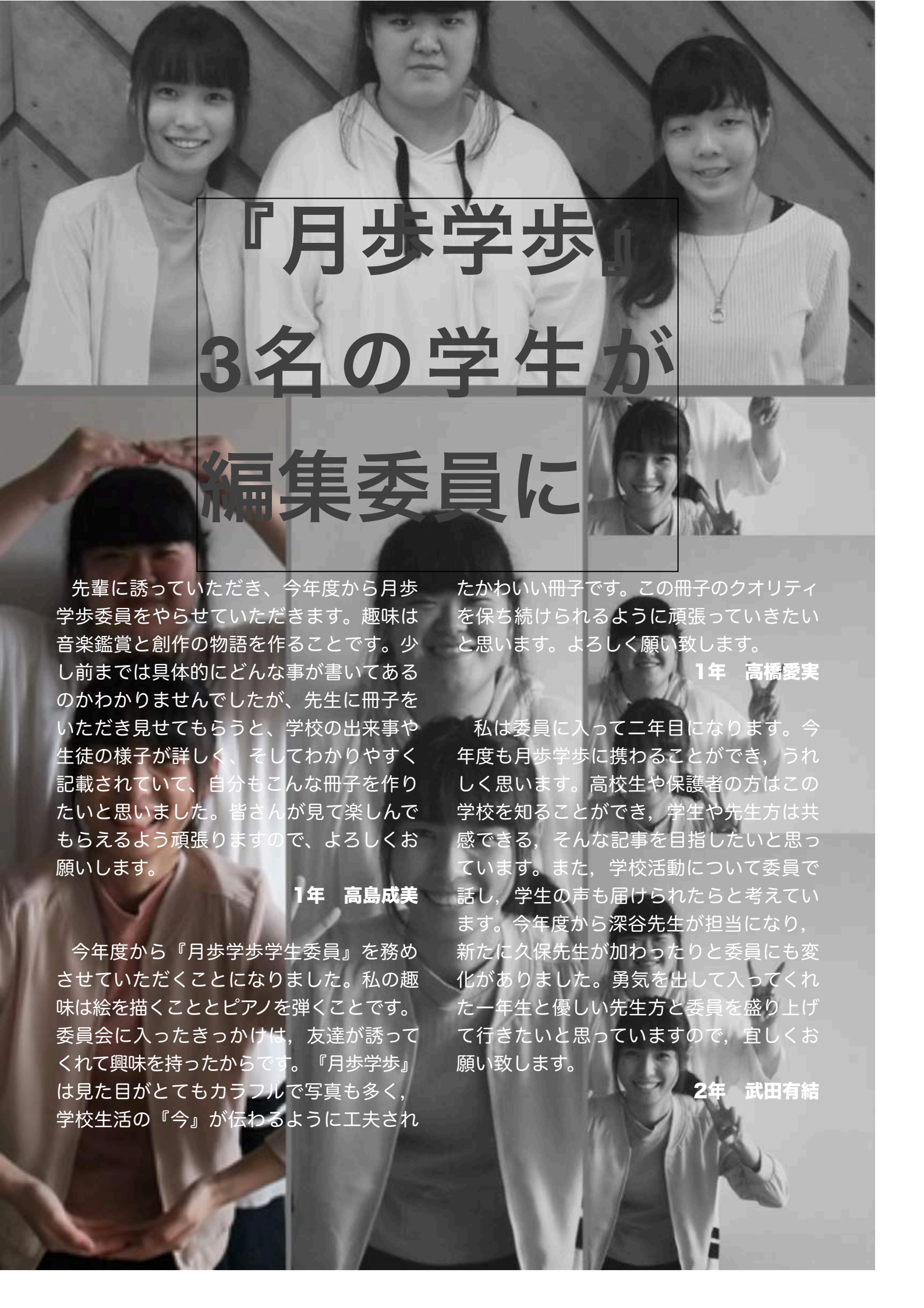
▷深谷先生が、「アートのことを表現というのか？」という疑問に対してお話されていたことがとても印象的でした。言葉自体も「表現」であり、人がすること（表情等）すべてが表現であるということを知り、「表現」の大切さを本日の一日で改めて学ぶ機会となりました。子どもの姿全て（泣く、笑う、怒る、身振り等）を大切に捉え、一人ひとりの姿に目を向けることをより一層意識していきたいと思いました。

▷現在0歳児を担当していますが、対談を聞いて、様々な表情を見せてくれる子どもたちの顔が浮かびました。私自身がもっと‘感じる’ことを大切にしていきたいです。



### 今回の要領・指針の改定の本旨は？

- 保育・幼児教育の社会での位置を高めるために、その質をアップすること。
- つまり、保育は幼児期の教育であるということを積極的に認め、その質の向上を図る努力をみんなでしよう、ということ。
- しかし、そのためには、現在の保育における教育がどういう仕組みで行われているか、しっかり理解することが先決。



# 『月歩学歩』 3名の学生が 編集委員に

先輩に誘っていただき、今年度から月歩学歩委員をやらせていただきます。趣味は音楽鑑賞と創作の物語を作ることです。少し前までは具体的にどんな事が書いてあるのかわかりませんでした。先生に冊子を見てもらおうと、学校の出来事や生徒の様子が詳しく、そしてわかりやすく記載されていて、自分もこんな冊子を作りたいと思いました。皆さんが見て楽しんでもらえるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

**1年 高島成美**

今年度から『月歩学歩学生委員』を務めさせていただくことになりました。私の趣味は絵を描くこととピアノを弾くことです。委員会に入ったきっかけは、友達が誘ってくれて興味を持ったからです。『月歩学歩』は見た目がとてもカラフルで写真も多く、学校生活の『今』が伝わるように工夫され

たかわいい冊子です。この冊子のクオリティを保ち続けられるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

**1年 高橋愛実**

私は委員に入って二年目になります。今年度も月歩学歩に携わることができ、うれしく思います。高校生や保護者の方はこの学校を知ることができ、学生や先生方は共感できる、そんな記事を目指したいと思っています。また、学校活動について委員で話し、学生の声も届けられたらと考えています。今年度から深谷先生が担当になり、新たに久保先生が加わったりと委員にも変化がありました。勇気を出して入ってくれた一年生と優しい先生方と委員を盛り上げて行きたいと思っていますので、宜しくお願い致します。

**2年 武田有結**



## 編集者後記

6月28日（水）に献花式が行われました。本校創立者の福中儀之助先生の命日（S23年7月29日）の1か月前を学園記念日として定め、その前日に学園関係者が一同に集まりました。献花式は、創立者への感謝を示し、今後の学園の未来を大きく発展させていくことを誓い合う会です。学園を創立してから92年が経ち、歴史を感じられるとても良い式になったことをご報告します。

訂正及びお詫び。先月号の編集者後記において科目名を間違っていました。「乳児保育」ではなく、正しくは「こどもの保健」の授業でした。申し訳ありませんでした。





◀7月 明德の自然



Lara, Blanca, Isma, Carmen, Isabel, Santiago, Pablo!

¡Bienvenidos a nuestra escuela!



## 学事日程

7-8月

**31日 (月)**

❖前期授業終了

**8月5日 (土)**

❖学園祭準備日

**8月6日 (日)**

❖学園祭

❖ホームカミングデー

❖ミニ オープンキャンパス

**11日 (金)**

❖事務室閉室 (~17日)

**12日 (土)**

❖オープンキャンパス

**18日 (金)**

まんぷくcafé

**21日 (月)**

❖保育実習II&III (~9月2日)

❖メディアコミュニケーション  
(~9月4日)

**24日 (木)**

❖保育実践研究会

**26日 (土)**

❖オープンキャンパス









